

# ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局  
VOL56 平成 21 年 10 月



医療法人 真誠会  
理事長 小田 貢

## 全人的医療を 目指して



医療法人 真誠会  
名誉理事長 日野原 重明 先生

「全人的医療」は一般市民の皆さんにはまだ親しみのない言葉だと思います。医療法人 真誠会 理事長 小田 貢  
「全人的医療」とは、患者さんの訴えになっている疾患のみに関してアプローチするのではなく、患者さんの心理状態、社会的背景、ライフスタイルなどにも配慮して総合的にアプローチする医療のことです。この中には患者さんのおかれている環境の分析、それに対する助言、精神的支援などもありますし、中でも重要なのは患者さんと医師の信頼関係の確立です。そのために全人的医療を提供するためには、医師は患者さんから信頼されるに足る人間性の確立が必要です。また医師は単に手術、薬の処方だけではなく心理的な支援、音楽療法、ライフスタイルに対する助言も必要です。

このように、全人的医療を行なう現場で医師は単に自分の医学的知識で薬を処方するのではなく、患者さんとよく話し合って治療の選択をすることも必要です。治療はいわゆる、患者さんと医師の、そして看護師、臨床心理士などのチームとの二人三脚ではなく、百足歩きになります。それが私の目指している全人的医療です。

また、この全人的医療は医療法人真誠会名誉理事長 日野原重明先生（聖路加国際病院理事長）が日本でもリーダーシップを務めていらっしゃる領域なのです。

私は患者さんの医療に関して内科も整形外科も、循環器、呼吸器、脳神経内科についても基本的な診察を行っておりますので、患者さんが内科の病気で来院されても他の領域に関しても注意を払い、内科、坐骨神経痛の痛みの治療、心不全の治療、脳梗塞の診断、初期治療も行います。必要に応じて専門医に紹介しておりますから、患者さんが自己判断でいろいろな病気でいろいろな病院を受診する必要は少なくなります。

私は患者さんの頭から足の先までの状態を把握し、必要に応じて精神的な支援を行っています。また入院後や癌のターミナルケアでは真誠会のチームで全人的医療を行います。患者さんの体の痛み、心の痛みを最小限度にし、生きていてよかったと思っただけのケアを提供したいと思っています。

そして、これからも日野原イズムを伝える医療を実践したいと思っています。

## 神様から与えられた試練を乗り越えて ドクターズハイ

真誠会理事長  
小田 貢

真誠会セントラルクリニックは 20 年前の開業以来、鳥取大学医学部附属病院の専門外来から医師の派遣をしていただいていたので、忙しいといっても常に大学病院の先生に助けをいただいております。その後、4 年前に常勤の消化器専門医の梅木先生が来られたので、大学病院からの派遣は毎週土曜日だけになりました。それによって一週間のうち 6 日間は、梅木医師に助けをもらうことができていました。

そのため私もたまには理事長として医療法人、社会福祉法人全体の経営、人事、職員の指導やコミュニケーション、あるいはいろいろな原稿の執筆をする時間ももてました。

しかし、本年 3 月上旬に梅木先生は県外の病院に転勤になり、そのうえ大学病院からの消化器医師の派遣が隔週土曜日だけになりました。

大学病院の医局の事情も全国的な医師不足の流れと無関係ではなく、その波は真誠会にも及んできました。

ということで私は 65 歳にして過去 20 年間に経験のない大きな破壊的な波にさらされるようになったのです。4 年間は今まで一週間に 3 回でよかった病棟の回診も、殆ど毎日行わなければなりません。

私が過去数年間休んでいた胃内視鏡検査も 7 月の胃がん健診が始まってから毎日 2 から 3 例、毎月 40 から 45 例は実施しています。

それと同時に、梅木先生が診ていた患者さんも診察しなければならなくなりました。

そのため、朝は以前に比べて 30 分近く早く開始し、胃がん健診の内視鏡を一例行ってから一般診察をしています。統計的にみると、梅木先生がいなくなったために患者さんが少なくなったのは、ほんのごく一部です。私の外来の診察はそれまでの 30 から 50% 多くなりました。数分の休憩も無く、仕事をしなくてはならなくなりました。

ということで、診察と、回診であつという間に一日が終わります。今まで診療の合間に出来ていたことが、仕事を終えて夕食が終わってからも更に数時間しなければならない書類仕事がたくさんあります。このような事態になることは、梅木先生が転勤になる半年も前から想像はしていましたが、それを私一人で出来るかどうか自信は無く不安でした。

しかし、3 月に一大決意で向かい始めたら、それはそれで思ったよりも自分自身の気持ちが楽しいと思えるのです。今までより沢山の患者さんと接して、患者さんの診断と治療に没頭する状態はまるで、禅の世界に入ったように無心になります。世の中の一切のことを忘れて、目の前の患者さんにすべてを集中しているのです。

この状態に陥ると“疲れ”“空腹”などまったく感じず、むしろ快適な状態になります。そして医療をしていることに高揚感を生じてくるのです。それが最高潮に達したときにはまるで“悟りを開いた”ような無心の状態がやってくるのです。これは“クライマーズハイ”に対してして“ドクターズハイ”(小田造語)だと思っています。

そうこうしているうちに本年 8 月の外来の統計では、昨年私と梅木先生で診ていた患者さんの数より約 200 人多い患者さんを私一人で診ていた結果が出ました。ここまで来ると患者さんの中で「このままでは小田先生は死んでしまうのではないか・・・」とまで心配してくださる方も出てきました。

幸いなことに、来年 1 月には、新しい消化器専門医師が赴任します。現在の状態から開放されるので、超過酷な日々は、10 月、11 月、12 月の 3 ヶ月で終わります。

確かに、重労働から開放されれば、私はまた理事長としての責務を果たしたり職員の指導もできますし、原稿を書くこともできます。ですが、今のドクターズハイを感じるほどの忙しさはなくなることを思えば少し寂しい感じがします。

65 歳の私が感じたことですが、それは年をとればとるほど疲れる、仕事に限度があるというものではなく、医療のような素晴らしい目的のある仕事では忙しければ忙しいほど、多くの患者さんに信頼されて寸暇をおしはず働くことは、むしろ他では味わえない満足感と幸せ感や悟り感、ドクターズハイがあることが分かった貴重な時間でした。その点で私を約十ヶ月、逆境においてくださった神様に素晴らしい幸せ“ドクターズハイ”を体験させるための試練であつたことが分かりました。

聖路加国際病院名誉理事長日野原重明先生が「どんなに忙しくても疲れな、徹夜をして原稿を書いたあとのほうが、すがすがしく感じる」とおっしゃっている言葉が理解できた気がしました。

# 真誠会創立21周年記念



医療法人 真誠会  
社会福祉法人 真誠会  
理事長

小田 貢

## 小田理事長よりご挨拶

平成 21 年 9 月 9 日で真誠会は創立 21 周年を迎えました。満 21 歳です。昨年は、20 周年を迎え大きな式典を開催しました。一年一年の重みを感じます。

先日、栗島神社の階段を上りましたが、若い頃はスムーズに上ることができた階段も、今では一步一步上がっています。人生も同じ事が言えます。一步一步踏みしめて上がり続けているのです。大切なことはいつまでも歯を食いしばって一步一步上り続けることだと強く感じております。

現在、真誠会は大きな規模となり、職員全員を把握しきれていないところもあります。しかし、私の思いを事業所長が職員に伝えてくれていると安心しています。今年に入り、現場のことはほとんど森本副本部長に任せっきりにしています。こうやって現場が運営しているのも、森本部長をはじめ職員の協力があるからこそと思っています。また、中下先生、弓浜では五明田先生、藤本施設長にも大変お世話になっております。今、職員全員の協力をありがたく思い、感謝しています。

事業所長とはいつも密にコンタクトを取っていますが、それにも喜びを感じています。

私は、道が二つに分かれていれば、優しい道のりよりも、一生懸命勉強をする苦しい道のりを選びます。職員もその私の後ろをついてきてくれていると信じています。その分、勉強の時間が多く大変ですが、プロフェッショナルな人材に育てたい!という願いがあるのです。いつか、職員にもわかってもらえる日が来ると思っています。

私はできれば、80 歳まで元気に現役でやっていきたいと思っています。常に皆さんへの感謝の気持ちを持ちながら、真誠会が、25 周年、そして 30 周年を迎える日がくることを祈っています。



医療法人 真誠会  
社会福祉法人 真誠会  
副本部長

森本 靖子

## お祝いの言葉

真誠会創立 21 周年、誠におめでとうございます。

先進的なホスピタウン構想をスタートされ、いくたびかの保健・医療・福祉の制度改革の大きな影響を受ける中、小田理事長は、いつの時代も真実で、誠実で、顧客第一主義を中枢とされるお考えのもと、また、研ぎ澄まされた経営マインドとスパイラルなイノベーションを展開され、真誠会を最優良企業として、成長発展を築いてこられました。昨年、内外共に、その実績と信頼と存在感を示されました創立 20 周年の感動は、私達にとりまして、大きな喜びとして記憶に新しいところです。

そして、これまで理事長の教えに導かれたことによって、今、職員の自立精神も高まり、一人一人がチームとしての力を結集してきたと実感いたします。

そのような中、21 年目を迎えました

相変わらず取り巻く環境は厳しい冬の時代ですが、理事長の勝ち残る戦略のもとに、私達も成熟期に向けてスタートしました。21 周年が真誠会の未来へのかけはしと捉えた時、今は、基本的な事柄として、3 つのことを大切にしたいと思います。

まず、一人一人が諸問題から目をそむけることなく、一丸となってスクラムを組み、真誠会の目標達成に立ち向かう強固な姿勢を大切にしたいと思います。

次に、ホスピタウン真誠会のシンボルマークにあります、青と赤と白と銀色と黄色で構成されたデザインは、希望と冷静、情熱と活気、善、清廉、美しい輝き、光沢、愛を表現しております。これは真誠会理念がこの中に凝縮されており、私達の行動の根幹をなすものとして、このことを大切にしたいと思います。

そして、理事長がホスピタウン便りで、今こそ私達が社会に示す大切なものとして、絶対的価値のある心、思いやり、助け合いの大切さを説かれました。すなわち、ボランティア精神を育むことも大切にしたいと思います。

この 3 つを基本とし、今後も理事長の方針を受け、方向性を見失うことなく専門職業人としての主体性・責任性を育み、確固とした組織戦略で春を迎えたいと決意しています。そして真誠会の更なる発展にささやかなりとも寄与することをお約束しながら、21 周年の挨拶とさせていただきます。

# 人権協働シンポジウム開催

平成 21 年 9 月 27 日は、米子コンベンションセンター（小ホール）にて人権協働シンポジウムが開催され、成功に終わることができました。

今まで人権についての取り組みは、一般的に言えば行政主導で行なわれてきているという歴史があると思います。そのために、一般市民にとって人権というものが法律的な定義の堅苦しいもののように感じたり、日常生活からは縁遠いものと思われがちです。

今回は行政からの視点ではなく、市民の視点で、そして生まれてから死ぬまでの間のそれぞれの代表的なステージにおける人権の問題をテーマに、4 名のパネリストの方々に発表していただきました。

人生の中で深く関わりのある人権を、もっと日常的に大切に考えられるようにすることを目的として、また会場の皆さんと一緒に意見交換することにより、人権を私たちの生活の中で身近な問題、親しみやすい言葉として感じられるようなものにするには、どのような取組が必要なのかを考えることのできるシンポジウムになりました。

今回の人権協働シンポジウムは、従来の堅苦しい「人権」のイメージではなく、優しさで人権を守る人の育成、社会の構築をがいなネットらしく訴えることが出来たと思います。

パネリストの皆さんの情熱ある力強い発表内容は、精神的豊かさ、社会への発信力、会場の運営能力などなどに対する実力を確認できたと思っています。

今後も引き続き、品格のある良識集団、あるいはオピニオンリーダーグループとして社会に提案し、活動を展開していきたいと思ひます。

オープニングとエンディングには、ゴスペルオーブさんが出演してくださり、会場の雰囲気も歌で暖かく包まれ、大変盛り上がりしました。



コーディネーター、コメンテーター、パネリストの皆様

## 平成21年度 人権協働ネットワーク「ミニシンポジウム」実施事業 (鳥取県委託事業)

### 「生まれて死ぬまでの“ひと”の人権を考える」 みんなで語ろうやさしい人権

～子ども・高齢者・障がい者等の人権、  
地域における人権と協働のありかたを考える～

コーディネーター…… NPO法人がいなネット 理事長 小田 貢  
コメンテーター……新日本海新聞社 西部本社代表 寺谷 寛氏

#### パネリスト

- 1) 乳幼児の人権について  
演題「生まれてきてくれてありがとう」  
…子育てをよくする会子育て支援ネット西部代表 松本寿栄子氏
- 2) 学童児の人権について  
演題「耳を澄ませて見ませんか? —子供の心、親の心—」  
……………高野歯科医院 副院長 高野 由美氏
- 3) 難病、高次脳機能障がい者の人権について  
演題「地域で共に生きる高次脳機能障害者」  
……………高次脳機能障害者家族会 会長 森田多賀枝氏
- 4) 高齢者の人権について  
演題「いくつになっても、あなたらしい人生を!」  
……………米子市弓浜地域包括支援センター管理者(社会福祉士) 小坂 一氏

ゴスペルオーブさんには  
オープニングと  
エンディングにすてきな  
歌を歌っていただき  
ました。



## 第1回 地域介護教室開催



小田理事長の講演会(米子)

簡単にできる体操です(弓浜)

平成 21 年 8 月 22 日に米子ホスピタウンにて、そして 9 月 12 日には弓浜ホスピタウンにて、第 1 回地域介護教室を開催しました。米子ホスピタウンには約 30 名、弓浜ホスピタウンには約 70 名、合計約 100 名の方々がご参加下さいました。まず、小田理事長より「やすらかな最期のために」と題して、看取りについての講演がありました。普段、あまり考えることのない自分の「死」について深く考えさせられる時間でした。そして、講演後は理学療法士によるリハビリテーションに関するお話と、健康運動指導士による健康体操の時間があり、会場の皆さんと体を動かしました。たくさんの地域の方、ご利用者さんのご家族など多くの方にお越しいただくことができ、スタッフ一同、第 2 回の開催に向けての意欲が高まりました。

# 研究活動について

看護介護統括部長 森本 靖子

医療・介護保険制度の変革が進む中で、より質の高いサービスを効果的・効率的に提供していくためには、保健・医療・福祉分野の専門職者の能力開発としての継続教育、個の学習計画に基づく PDCA サイクルの展開が重要です。

その考えの基、真誠会の教育理念は、人間愛、社会貢献、立派な社会人の育成を根幹に、個々の職員が専門職業人として成長し、職業を通して自己実現できること、また生涯教育の一環として位置づけ、職員の成長を支援する、を掲げています。

教育体制は、集合教育、分散教育、個人教育の整合性を図り、教育内容は、

1. 新採用者研修（中途採用者含む）
2. 現任研修
3. 専門性を高める研修（例：認知症研修の強化、各種資格取得支援）
4. 研究活動

以上の4つの柱と、ネットワークを用いた日々の理事長の講義を中心に展開しています。

その中で、特にここ数年は研究活動が活性化してきました。

研究に関する年間の集合研修は、年度ごとに以下のとおり行っています。

- 1 回目：5月＜講義・演習＞「研究の取り組み方と研究計画書の作成の仕方を学ぶ」
- 2 回目：11月＜講義＞「研究のまとめ方と効果的な発表の仕方を知る」
- 3 回目：12月＜講義＞「座長と講師の役割を知り実践できる」
- 4 回目：2月＜発表＞「施設内研究発表会」

昨年の施設内研究発表数は21件、施設外研究発表数は16件となっています。日々の実践の中で、なぜこうなるのか、もっと良い方法はないのか、と考える気づきの中からの研究の取り組みであり、看護・介護などの芽、着眼点は素晴らしい内容となっています。

また、これらの講義、発表の機会に座長、講師の役割を担うことで、より一層研究のプロセスの理解が容易となりました。そして、研究結果から次のケアに役立つものとして継続されていると実感しています。私達は、学問的な基盤を背景に、専門職として地歩をしっかりと固めていくために、研究は避けては通れない営みであります。

## 平成20年施設外研究発表の一覧

| 日時     | 学会名                    | 主催               | テーマ  | 発表者    | 共同メンバー   |
|--------|------------------------|------------------|--|--------|--|
| 2月16日  | 鳥取県社会福祉学会<br>第1回研究発表会  | 鳥取県社会福祉学会        | 地域の高齢者の見守り・<br>ニーズ発見に活用できる重層的な<br>ネットワークの構築              | 小坂 一   |  |
| 5月17日  | 認知症グループホーム<br>大会米子     | 全国グループホーム協会      | センター方式の活用による職員の<br>意識変化とケアに実際                            | 黒見 令   | 小徳美千子・青松庵職員・<br>森本靖子                               |
|        |                        |                  | 認知症ケアに関する職員教育の<br>実際                                     | 小徳美千子  | 森本靖子・佐平登志美・<br>井澤美恵子・萬谷 茂                          |
| 5月24日  | 山陰認知症ケア研究会             | 山陰認知症ケア研究会       | 認知症ケア専門士の認知症ケアに<br>対する意識の変化                              | 佐平登志美  | 小山雅美・山根祥子・赤尾美香・<br>小徳美千子・森本靖子                      |
|        |                        |                  | 基本検診におけるタッチパネルで<br>の認知症の早期発見                             | 河瀬 仁美  | 梶谷周子・角田直子・宇田川理恵・<br>井澤美恵子・森本靖子・小田 貢                |
| 6月1日   | 第14回鳥取緩和ケア<br>研究会      | 鳥取緩和ケア研究会        | 肺癌の終末期症状のアセスメント<br>が困難だった一事例<br>～せん妄と認知症状の捉え方について～       | 長谷川美年子 | 岡田悦子・田辺真澄・堀田文子                                     |
| 6月4日   | 鳥取県老人福祉施設<br>研修大会      | 鳥取県老人福祉施設<br>協議会 | 感染予防対策の実際と評価   | 矢倉 真一  | 遠藤兼二・南 悦子・井澤美恵子・<br>森本靖子・小田 貢                      |
|        |                        |                  | 少人数ケアの取り組みと課題<br>～ユニットケアへ向けて～                            | 田中 智子  | 小谷真由美・加藤美香・南 悦子・<br>森本靖子                           |
| 7月19日  | 看護診断研究会第1回             | 看護診断研究会          | 有床診療所における看護診断の<br>活用の現状と課題                               | 井澤美恵子  | 角田直子・森本靖子  |
| 7月25日  | 中国四国ブロック<br>介護老人保健施設大会 | 全国老人保健施設協会       | 通所サービスHOT利用者の入浴中<br>のSPO2測定～入浴ケアへの気づき～                   | 山根 祥子  | 佐々木雄史・竹宮早紀・佐平登志美                                   |
|        |                        |                  | 個別屋外レクリエーションが<br>利用者と家族に与えた影響<br>～重度認知症の事例から～            | 山田 恭子  | 陶山さやか・中島歩美・石井千穂・<br>絹川裕子                           |
| 8月30日  | 第6回日本臨床医療<br>福祉学会      | 日本臨床医療福祉学会       | センター方式の活用による職員の<br>意識変化とケアに実際                            | 黒見 令   | 小徳美千子・青松庵職員・<br>森本靖子                               |
|        |                        |                  | 遺族訪問時のプロセスレコード<br>からの質的分析<br>～訪問看護師としての関わりから<br>見えてきたもの～ | 神田 典枝  | 近藤紀子・田辺真澄・岡田悦子                                     |
| 9月28日  | 中国腎不全研究会               | 中国腎不全研究会         | 外来透析が困難と考えられた<br>患者へのサポート                                | 鈴木真紀子  | 足立好美・加瀬部寛・北尾 仁                                     |
| 12月13日 | 山陰認知症ケア研究会             | 山陰認知症ケア研究会       | 富益地区における認知症予防の<br>取り組み                                   | 安田 博子  | 小坂 一・専田隆子・坂本真鈴美・<br>陰山佳代子                          |
|        |                        |                  | 地域住民のサポートを受けた<br>認知症高齢者へのアプローチ<br>～多機能性を活かした支援～          | 亀澤 香織  | 大西裕一郎・奥田那美恵・<br>倉島敏子・篠原理奈・内田陽香・<br>金澤サチコ・金田直己・小田 貢 |



# 辻田耳鼻咽喉科



辻田耳鼻咽喉科  
院長 辻田 哲朗

## フランス見聞録 (1)

9月の連休を利用して上の娘と二人でフランスに旅行に行ってきました。わずか3泊4日の旅でしたが、フランス、特にパリを満喫できましたので、少しばかりレポートしてみます。

### 交通機関

パリでの移動は主に地下鉄を利用しました。パリの地下鉄は全部で14路線あり縦横無尽にパリ市内を走っています。そこで興味深かったのは、時間帯によって乗車して来る客層が異なっていたことです。早朝にはアフリカやアラブなどからの移民と思われる肉体労働者が多く乗り込み、少し時間が遅くなるとスーツにネクタイのビジネスマンの姿が目立つようになり、そして昼間は女性の姿が増えてきて、夜遅くなると黒人の若者が多くなりちょっと物騒な雰囲気へと変わっていきました。まさに地下鉄はパリ市民の足だと実感しました。観光客も多く利用するかと思ってましたが、意外にも日本人を初めとした外国人観光客と思しき姿をあまり見かけませんでした。またパリにはヴェリブと言って、新しいタイプのレンタサイクルが2年前から登場しています。一度登録すれば市内に1000ヶ所程あるヴェリブのステーションで外国人でも自由にいつでも利用することが出来ます。ボクもさっそく登録してパリを颯爽と走って見ました。ところがなにせ地理がわからないし、パリは意外と一方通行が多くてたちまち道に迷ってしまい、すぐにギブアップしてしまいました。ただし、その時に自分の仕事をほっぽり出して地図を見ながら丁寧に教えてくれた婦警のマドアゼル、これもまた気さくに道を教えてくれたアメリカ人の若いムッシュに出会えて、見知らぬ所で心細くなった時に人の温かさ感謝です。

### 移民事情

パリはそれこそ人種のるつぼでした。ところが、この多種多様な移民社会もある意味フランスが抱えている問題を浮き彫りにしているように感じました。朝早くホテルの近くを散歩すると、まだ夜が明け切らない暗い時間からゴミ収集車が動き始めていましたが、働いている人は皆黒人でしたし、スーパーのレジには黒人、ベトナム出身と思われるアジア系の人達が多く、パン屋やカフェでも黒人、アラブ系、アジア系が多く見られました。要するに3Kの職種にはかつてフランスの植民地だった人たちが大部分で、そしてこの人達がフランスを支えているからこそフランスがフランスでいられるようです。夜にカフェで寛ぐことができるのは、ネイティブのフランス人だけです。移民の人達には時間も金もそんな余裕なんかないように感じました。かつてサルコジ大統領が移民を排除しようとするような発言をしましたが、フランス人にはまったく受け入れられませんでした。その時は事情がよく飲み込めなかったのですが、現地に行って初めてわかりました。今のフランスはもう底辺を支えてくれる移民の存在なしには成り立たなくなっています。

### ワイン、チーズ、それとクロワッサン

当地ならではのうまい食べ物に出会えるのも旅の楽しみの一つです。確かに本場のフランス料理はうまかったです。ところがそれ以上の発見はとにかくパンがうまかったことです。それとチーズとワインもうまいし、おまけに安い。パリでは朝早く起きて近くのパン屋に行き、焼きたてのクロワッサンを買ってホテルで食べましたがこのバターたっぷりの焼きたてのクロワッサンが旅行で食べたものの中で一番うまかったです。それともう一つ感じたのが、クロワッサンもチーズもどれもひとつひとつが日本のよりはるかにでかい。レストランで出される料理もボリュームがありすぎて全部食べられませんでした。また、時間がなくてカフェでも食事しましたがここで出された料理はあまりうまくなかったです。やっぱりカフェはカフェです。のんびりカフェオレでも飲みながらゆったりと時間を過ごす所で、食事するところではありません。せっかく食事するなら、ちょっと高くてもレストランに限ります。

ボクにとっては初めてのフランスでしたが、念願のルーブルとオルセーの美術館にも行けましたし、異文化も体験できましたしとてもリフレッシュできました。次号でまたレポートします。



パリのvelib' (ヴェリブ)



# いえはら歯科



いえはら歯科  
院長 家原 猛

## 「・・・風の音にぞおどろかれぬる」

お盆も過ぎ、9月に入った時期になると、毎年思い浮かぶ和歌がある。

今年の立秋は8月7日。新暦だと立秋といっても夏真っ盛り。秋の始まりを感じるには早過ぎる感が否めない。テレビではやっと阪神甲子園球場での高校野球の熱い戦いが始まる頃であり、外に出ると蝉の声もまだまだ賑やかなのが例年である。しかし、今年は長梅雨で雨模様の日が続き、西日本では大雨を記録し甚大な被害を被ったところもあった。いささか例年とは趣を異にした立秋であった。お盆を過ぎてやっと本格的な夏空が広がった。冷夏による農作物への被害も心配されたが、最悪の状況は免れたようである。この頃はCO<sub>2</sub>等温室効果ガスの影響で地球の温暖化が進んだせい、日本の気候が亜熱帯化している。今年の7月19日皆生トリアスロン大会の夕刻、数時間にわたって米子の地でもゲリラ豪雨の土砂降りに見舞われた。29回を数えたこの大会でも、初めて警報を受けて中止が決定された。立秋に秋の気配を感じることは実感として甚だ難しく、窓を閉めてエアコンを効かせた部屋では、ますます肌を触る秋の風など感じられるはずもない。

子供の頃は夕方になると庭木や道端に水遣りや打ち水をしていた。重なり合う緑の葉から雫が滴り、地面を濡らす。風が誘われ、短冊が揺れる。「ちりん、ちりりん」と風鈴の音。縁台で涼む下町風情に蚊取り線香と蚊を追う団扇は欠かせない。おっと、和歌を忘れていた。

「秋来(き)ぬと 目にはさやかに 見えねども 風の音にぞ おどろかれぬる」

時は平安時代の初期、古今和歌集にある。今から1100年以上も前のことである。作者は藤原敏行(ふじわらのとしゆき)朝臣。地方官・右近少将・蔵人頭などを経て、寛平九年(897)、従四位上右兵衛督に至る。和歌史的には、ちょうど六歌仙と古今撰者との中間に位置する歌人ということになり、百人一首でもそのような位置を与えられている。また、藤原氏出身者として最初の傑出した歌人である点も注目される。と、ある。(一部引用)能書家としても著名。(秋が来たと目にははっきりと見えなけれども、風の音にはと気づいた。)

当時どのようなところで詠んだのか、田んぼは未だ色づかぬ青い稲穂が揺れているのか、その上を晩夏に姿を見せる赤い蜻蛉が飛んでいたろうか、この頃水路の中でよく見かける鷺はその頃から同じように同じ姿でいたろうか。傍では旺盛な生命力で繁茂する萩の花が揺れていたろうか。調べると、『立秋の日に詠んだという歌。「立秋の日から風は吹き増さる」という当時の常識——生活実感に基づく常識と言うよりも文学的な常識である——を前提とし、「目に見る」「音に聞く」という対比のもとに季節の推移への気づきを詠んだのは、古今集の典型的な理知的作風と言える。もとより「風の音にぞおどろかれぬる」という秋の発見は平生の実感に基づくことが、その《実感》を生かしたのは、視覚・聴覚の対比という知的な構想なのである。一陣の涼風のようにさわやかな調べ・姿は比類がなく、「さやかに」の句が下句にも効いて響き、秋の訪れを告げる風の音が、鮮やかに聞き取れる。』と、ある。

2009年秋、「政権交代」まさに歴史的な変革の風におどろかれぬるである。

### 真誠会創立21周年記念行事

## 「ハワイアンフラ」

平成21年9月9日、真誠会満21歳のお誕生日の日にゆうとぴあ1階にて、ハウオリーズ・マサコ・アクタ・フラ・スタジオの皆さんが、ボランティアでハワイアンフラを踊って下さいました。

ハワイの曲にのせながら、優雅とても美しい踊りを披露して下さい、見とれてしまうほどでした。ご利用者様も職員も、自然と手を動かし一緒に踊っていました。

穏やかな音楽にのりながらハワイアンフラを楽しみ、皆様とともに真誠会創立21周年をお祝いすることができましたことを、心から嬉しく思います。





## イングリッシュガーデン “ターシャ”開園



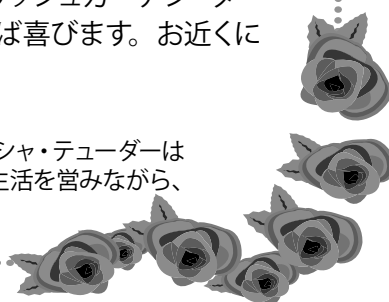
長い間の念願であったイングリッシュガーデンを、健診センター（旧中下医院）の裏庭に造りました。

そして、庭の名前をイングリッシュガーデン“ターシャ”と名づけました。お庭好きの人であれば、ターシャ・テューダーの名前はご存知だと思います。

そして、6月11日にはオープニングセレモニーを行いました。その後、少しずつですが、バラなどの様々な花が咲きそろいました。秋にも、秋のバラが咲く予定です。

皆様にもぜひ、お時間があれば真誠会イングリッシュガーデン“ターシャ”を訪れて、しばし心を和ませていただければ喜びます。お近くにはいらした際は、お気軽にお立寄り下さいませ。お待ちしております。

※ターシャ・テューダー:アメリカを代表する絵本作家ターシャ・テューダーはアメリカ、バーモント州の山中で、ほとんど自給自足の生活を営みながら、花を育て絵を描きました。



「薬剤管理室」の看板が小田理事長から木村薬剤師へ渡されました!

## 「薬剤管理室」開設!!

皆様はじめまして、薬剤課の木村幸美です。今年の5月から真誠会でお世話になっています。

薬剤師になって25年(年齢はご想像におまかせします…)、製薬会社、調剤薬局、ドラッグストア、病院など色々な職場での経験を通じて、自分が生きがいを感じる仕事のあり方が見えてきたなと感じているところです。

私が理想としている薬剤師像は、「臨床の現場で、チーム医療の一員として活躍できる薬剤師」です。「自分自身で患者様の状態を実際に確認」し、「より最適な薬物療法を行えるよう、医師・看護師・栄養師など医療チームのメンバーと連携していくこと」を大切にしていきたいと考えています。それにより、病気の回復や悪化防止などに役立ち、患者様に喜びを感じていただけたら、私自身も薬剤師としての、生きがいや幸せを感じることが出来ます。

この10月には、念願の「薬剤管理室」が完成しました。調剤機器の導入も行き、真誠会の各施設に、より効率的に質の高い調剤薬を供給していく環境を整えている最中です。

この薬剤管理室は単に、「薬を作る部屋」としての機能だけではなく、真誠会各施設への薬剤情報の発信基地としての機能も果たしていけるよう取り組んでいこうと考えています。

「クスリ」に関する疑問・質問等ございましたら(もちろん、他の事でも)、気軽に声を掛けていただけると喜びますので、よろしくお願ひします。



## 特定健診はお済みですか!?

真誠会セントラルクリニック健診センター

「生活習慣病」や「メタボリックシンドローム」については社会的にだいぶ認知されてきたように感じます。

腹囲は、メタボ判定の基になりますので気になる検査項目です。腹囲1cmを減らすことは、体重1kgを減らすことに相当します。基準値を超えた方はなんと言っても食事のエネルギーを減らすことと、運動によるエネルギー消費量を増やすことにつきます。

人類は歴史上、常に飢餓との戦いで現在のような飽食の時代は存在しませんでした。好きなものを好きなだけ食べることができ、ライフスタイルの近代化、高齢化に伴い、生活習慣病という新たな戦いもまた始まっているのです。

特定健診を受けることは病気の早期発見、早期治療そして自らの生活習慣を振り返り、元気に人生を送る上でも大切なことです。当健診センターは各種健診、二次検査や専門医へのご紹介、健康教育、個別保健指導、情報提供等、親切丁寧なサービスを心掛けるとともに、皆様の強力な健康支援パートナーになりたいと思っています。





## 高齢者の排尿管理に関する共同研究

### 老人保健施設 の日常

介護老人保健施設は、病院を退院後に在宅ではケアが難しい高齢者に入所の上、日常生活面での看護・介護とリハビリテーションにより在宅復帰を援助するための施設です。在宅生活の障害となる原因として、認知症、骨折、寝たきりと尿失禁などの排泄障害があり、入所者および家族の施設入所に際して、最重要の要望事項の一つに排泄行為の自立が上げられます。しかし現状における、介護保険制度では認知症対策に取り組んでいますが、排泄障害は置き去りにされ、オムツでの対応を余儀なくされています。

排泄介護が遅れた要因として、国の介護保険政策に排泄介護面への配慮が足りず、医学会は先進医療に邁進し、介護現場では経験的な排泄パターンに基づく排泄指導、世間での度が過ぎた水分の強制摂取や水のみ信仰が上げられます。排泄管理に対する軽視や混乱が見られるのは、小児期のオムツはずしの成功体験が根底に在るように思います。小児においては、4歳前後で排尿機能が成熟して自ら便器に排尿可能になり、オムツはずしが完了します。オムツはずしは膀胱機能と関連しており、排泄管理には膀胱機能の検討が必要です。

このたび日本老年泌尿器科学会で、オムツ使用の要介護高齢者に対して、北九州方式による要介護高齢者に対する排尿管理の共同研究が企画されました。実施方法は、膀胱の働きを調べるために、1日間だけ1時間毎にオムツの濡れ具合をチェックして、超音波残尿測定器（長時間尿動態データレコーダ「ゆりりん」）で膀胱に残っている尿の量を調べます。下部尿路とそれに関連する機能評価に基づいた排尿管理を行います。ゆうとぴあの現場環境から、施行可能と考えて参加しました。全国で老人病院や老健などの福祉関連の16施設が登録して、山陰地方では安来市民病院と医療法人真誠会ゆうとぴあでした。

当施設でも特徴ある介護を目指しており、認知症に次いで排尿・排泄管理でも全国レベルへのスキル向上を目標にして励みたいと思います。



介護老人保健施設  
ゆうとぴあ

施設長 中下英之助



## 排尿管理に超音波残尿測定器

### 長時間尿動態データレコーダ「ゆりりん」を導入しました

< ゆりりんの紹介 >

ゆりりんは膀胱尿量を測定する測定器です。これまで、膀胱内の尿量を測定する装置はありましたが、長時間にわたり、継続的に測定するものとしては初めてとされています。

病院では膀胱容量を確かめるのに、超音波診断装置がありますが、日常生活の現場では手軽に用いることができません。ゆりりんは、医師の指示で使用する医療用機器ですが、携帯型で操作も簡単な為手軽に使用できます。

利用者や介護者にも負担が少なく、軽い症状の方から、介護を必要とされる方まで幅広く自立して排尿が出来るようにサポートすること、そして健康管理が目的とされています。

介護老人保健施設ゆうとぴあでも現在使用していますが、看護師、介護福祉士も使用でき機械も小型で使い易く、利用者や介護者にも負担が少ない為とても便利なものだと思います。

介護老人保健施設ゆうとぴあ  
排泄委員会 岡田修治、花房幸雄





## 野外花火大会 ～童心にかえって～

介護老人福祉施設ピースポートでは、平成 21 年 7 月 22 日と 8 月 3 日に、弓浜ホスピタウン正面玄関駐車場にて野外花火会を催しました。

職員と一緒に手持ち花火を楽しまれるご利用者様や、打ち上げ花火、吹き上げ花火を見て楽しめる方、中には「た～まや～!」と大きな声で掛け声を掛けて下さるご利用者様もいらっしゃいました。

「初めてして楽しかった!」、「きれいだったわぁ～♪」などの声も聞かれ、皆さんに楽しんで頂けたように思います。また、私たち職員も童心にかえり、一緒に楽しませて頂きました。

ご家族様にも呼びかけをしましたが、残念ながら今回はご都合が悪く、参加していただけませんでした。花火会だけでなく、食事会や紅葉見などいろいろな行事を企画しております。ご都合がよろしければぜひ、ご家族様にも参加して頂き、ご利用者様と一緒に楽しい時間をお過ごし下さいませ。



たあ～まやあ～!



色とりどりで  
きれいだねえ☆



## ゴスペルふれあいコンサート



ゆうゆうさんの歌声に  
元気をもらいました!



皆さん  
身振り手振りで  
一緒に  
歌いました♪

平成 21 年 7 月 29 日(水)、ケアハウスリバーサイドでゴスペルグループゆうゆうさんによる「ゴスペルふれあいコンサート」が開催されました。

ゆうゆうの皆さんが階段から登場され、会場の皆さんは拍手でお迎えしました。歌が始まった途端、会場が一つになり、歌ったり、時には体を動かしてリズムに乗って踊ったり♪最後は、会場の皆さんで「ふるさと」を手をつなぎ歌って、賑やかなコンサートは幕

を閉じました。きれいな歌声に感動され、会場の皆さんが涙を流して喜んでいらっしゃいました。ゆうゆうの皆さんのとてもすばらしいボランティア活動を、今後も続けてほしいと思います。本当にありがとうございました☆また、来て下さいね♪



## ピアノボランティア dolce (ドルチェ) 演奏会

平成 21 年 8 月 22 日(土) ピアノボランティア dolce (ドルチェ) の足立真由美さんによりピアノ演奏会が、弓浜ホスピタウン(大崎) 1 階 2000 年ホールにて行われました。

入所者さんや利用者さんが演奏会に参加され、いつも以上の微笑みを見ることができました。普段は音楽にあまり興味を示されない男性利用者さんも、音に合わせて体を動かしておられ、会場の皆さんがリズムに乗ってノリノリでした♪「若い頃はよくコンサートを聞きに行っていたなあ～」というお声も聞かれ、皆さんが懐かしそうに音楽を聴いておられました。

広いホールに、ピアノのきれいな音色が響き渡り、夏の暑さも吹き飛ばすほどのさわやかな雰囲気に包まれました。やっぱり、音楽を聴くと癒されますね♪ドルチェさん、ボランティアありがとうございました。



dolce (ドルチェ) の  
足立真由美さん



きれいな音色に  
皆さんうっとり\*^-^\*



## 第15回米子ホスピタウン夏祭り (河崎)

平成 21 年 8 月 2 日(土)毎年開催されます「第 15 回米子ホスピタウン夏祭り」がゆうとぴあ広場にて行われました。

理事長の掛け声のもと、神輿隊が入場!「ワッショイ!ワッショイ!」と利用者さんの掛け声にも力が入ります。河崎のボランティアの皆さんによる踊り、職員による踊りも披露され、皆さんの顔が笑顔に染まりました(∩∩)

また、お楽しみ市やたこやき、かき氷、アイスクリーム、そしてお豆腐屋さんなど、お祭りにかかせない出店もありとっても賑わいました。

地域からも小さなお子さんたちも来ていて、ヨーヨー釣りや綿菓子も大繁盛でした。今年の夏祭りも大成功♪



## 第10回弓浜ホスピタウン地域福祉交流夏祭り (大崎)



平成 21 年 8 月 29 日(土)、弓浜ホスピタウン 1 階 2000 年ホールにおきまして、「弓浜ホスピタウン地域福祉交流夏祭り」が行われました。今回の夏祭りで記念すべき“第 10 回目”を迎えました。これも一重に、地域の方々のご協力のおかげだと感謝の気持ちでいっぱいです!今回も地域の方々や、利用者さんがたくさんお集まりくださり、2000 年ホールは満員になりました。



オープニングでは、崎津子供会銭太鼓同好会の皆さんが、銭太鼓や傘踊り、そしてがらりと衣装を変えノリノリのダンスを披露してくれました。かわいい子どもさんたちの踊りで幕をあげた夏祭り♪利用者さんの中には、ヨーヨー釣りコーナーで水風船を見て「きれいだね〜♪」と笑顔で話され、「この色のヨーヨーがほしいなあ!!」とヨーヨー釣りに挑まれました!!きれいな色とりどりの水風船を見てとてもいい表情をされ、職員も嬉しい一時でした。

その後も、地域の皆さまや職員によるステージで盛り上がりしました。アイスクリームやかき氷を食べて、皆さん笑顔で「おいしいね〜☆」夏のいい思い出になりました♪



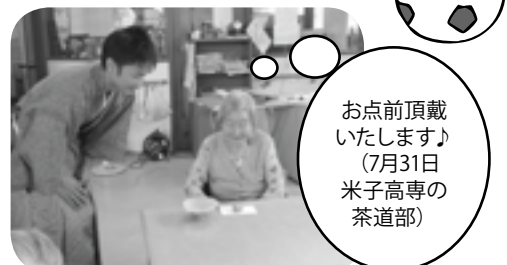
## 地域ボランティアの方との交流とふれあい♪

(富益しあわせサービス・グループホーム青松庵・小規模多機能センターふる里合同イベント)

平成 21 年 7 月 8 日、富益保育園の園児の皆さんをお招きし、合同七夕会を行いました。グループホーム青松庵、小規模多機能センターふる里のご利用者の方々と園児の皆様と一緒に、ゲーム活動を通じて触れ合われ、楽しいひとときを過ごされました。参加された利用者様の中には、園児たちの踊りや歌の披露を見て、感極まり涙ぐまれる場面もありました。

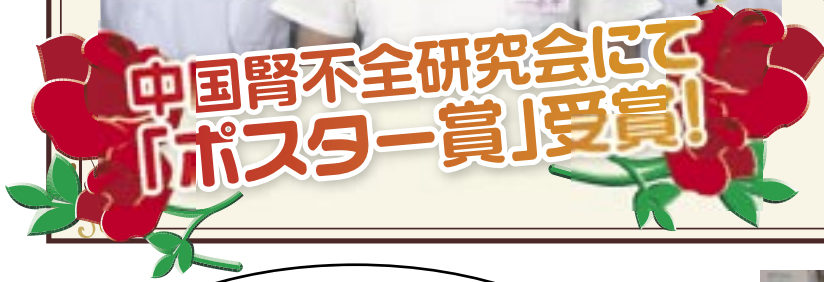
また、平成 21 年 7 月 31 日には、米子高専の茶道部の皆様に来ていただき、お茶会を開催しました。生徒の皆さんがお茶を立てる所を真剣な表情で見られ、その後のふれあいの時間では、互いに笑顔で談話されていました。

職員は、毎回、行事を通じて、人とのふれあいや地域の方々との交流の大切さを学ばせて頂いています。今後も、地域交流の場となり、少しでも利用者様の心に残るような行事を目指して取組みたいと思います。





平成21年9月27日、広島県にて中国腎不全研究会が開催されました。透析施設オアシススタッフが「認知症高齢者の透析室での危険行為に対する対応～心理社会的アプローチを試みた1事例から～」と題して発表をし、見事「ポスター賞」を受賞しました。



左：オアシス看護師長 北尾 仁  
 中：発表者(看護師) 赤井 一成  
 右：システム担当 山関 茂

このたび、真誠会正面駐車場の砂利部分をすべてアスファルトに舗装し、整備されました!

※駐車台数 103台

